



## 森林ふれあい情報

平成27年10月  
第36号

林野庁中部森林管理局  
木曾森林ふれあい推進センター  
〒397-0001 長野県木曾郡木曾町福島1250-7  
TEL:0264(22)2122 FAX:0264(21)3151  
E-mail:kiso-fureai@rinya.maff.go.jp

### 教職員を対象とした森林・林業体験学習会

8月6日(木)に木曾森林管理署管内の「城山史跡の森」ほかで、木曾地域の教職員を対象とした「森林・林業体験学習会」を実施しました。

この学習会は、児童・生徒を教える立場である小・中学校の教職員向けに、森林・林業について理解を深めてもらうとともに、森林環境教育の重要性やその知識を高めてもらうことを目的に、長野県と共催により平成14年度から実施しているもので、今年で14回目の開催となります。



野鳥の巣箱作り

当日は、木曾地域の教職員4名、関係者6名、計10名で学習会を開催しました。

午前中は、御料館(旧帝室林野局木曾支局)において、木曾地域の歴史や林業の変遷について学ぶとともに、木材を使った工作体験として野鳥の巣箱作りに取り組んでももらいました。

午後からは、城山史跡の森を散策しながら、当史跡の森の生い立ちや植物、森林の観察、国有林が実施している治山事業について学びました。また、木曾地域でもクマやイノシシ等による農作物や樹木への被害が年々増加していることから、学校の周辺に棲息する野生動物の実態

把握と使用方法を覚えるため、センサーカメラを実際に現地に設置しました。

参加した先生からは、「センサーカメラで学校周辺の野生動物の生息状況を観測したい。」「御料館は木曾の自然や歴史等が参考になるので切口を考えて教育計画を検討したい。」等の感想が寄せられました。

### 森林ボランティア作業支援

NPO法人「地球緑化センター」主催による、ふれあいの森(名称:『太樹の森・赤沢』)での作業が、9月5日(土)～6日(日)に行われました。

大学での夏休みを利用して初めて参加した学生をはじめ32名の参加者により、約50年生のヒノキ人工林での間伐と除伐作業が行われ、当センターでは木曾署と連携して伐倒の手順、かかり木処理の仕方などの安全指導にあたり、今年度の作業予定地を無事終了したところです。

参加した学生からは、「自ら森林の手入れができて良かった。」「豊かな自然を育て、次の世代にバトンタッチできれば。」といった感想が寄せられました。



間伐作業

## 林業体験指導

### フォレストワーカー

7月22日（木）に、フォレストワーカー研修生27名が赤沢自然休養林を散策しました。当センターでは木曽署職員とともに案内し、研修生たちは木曽の林業の歴史、赤沢ヒノキ林の形成過程、木曽五木の由来、伊勢神宮御神木の説明に対して興味深く聞き入っていました。



御神木伐採跡の見学

### フォレストワーカーとは

農林水産省は、「緑の雇用」現場技能者育成対策事業を通じて、フォレストワーカー一等の現場技能者の育成に取り組んでいます。

「緑の雇用」事業とは、未経験者の方でも森林の仕事に就き、林業に必要な技術を学んでもらうため、審査の結果認められた森林組合などの林業事業体に採用された人に対し、同事業体などを通じて講習や研修を行うことでキャリアアップを支援する制度です。

「緑の雇用」事業では就業年数に応じて研修の内容をステップアップさせ、将来の森林の担い手になるために必要なさまざまな技能を身につけられるよう体系的に研修プログラムが作られています。

### 上松中学校

木曽郡上松町の上松中学校の三年生50人が7月24日（金）、上松町に所在する赤沢自然休養林の散策及び近くの森林で林業体験（除伐、クマよけテープ巻き）を行いました。

この活動は、町の基幹産業になっている林業への理解を深めてもらうことを目的に、毎年実施されています。

午前には、ヒノキの林の中で三班に分かれ、木曽森林管理署、当センター職員の指導の下、生育の邪魔になる雑木をノコギリで除伐するとともに、倒木や植物の繁茂する急斜面で足場を確保しながら、ヒノキの幹にクマよけのテープを巻きました。山仕事をしたことのない生徒たちには大変な仕事でしたが、徐々に作業にも慣れ、予定した区域を実施することができました。

午後は、NPO木曽ひのきの森、木曽森林管理署、当センター職員が休養林散策のガイドを行いました。伊勢神宮御神木の説明ではNPOの方の木遣りに合わせ、相づちを入れる一コマもあり、木曽の森林の長い歴史と伊勢神宮とのつながりなども学びました。

参加した生徒からは「初めての林業体験で、斜面で木を切るのは難しく、林業の大変さが分かった。」などの感想があり、また、先生からは「子供たちは、森林の大切なことは理解しているが、触る機会が少ないので良い体験になったのではないかな。」との意見が出されました。



クマよけのテープ巻作業

## みどりの少年団

木曽地域のみどりの少年団が一堂に会し、緑豊かな自然の中で互いに交流し、共同作業や森林・林業その他自然に関する学習活動を通じて相互の連携を深め、緑豊かな心を育むことを目的とした木曽地区みどりの少年団交流集会在、7月30日（木）に県木曽地方事務所の主催で開催され、当センターも技術指導のために参加しました。

当交流会は木曽地域の町村で毎年実施されているものですが、今年は木曽町木曽駒森林公園を会場に11の少年団、引率教員、主催者、指導者等含めて約155名が参加しました。団毎によるみどりの少年団活動発表や、木製の名札作りや自己紹介後、木や山に関するフィールドビンゴ、来年の全国植樹祭で使用するプランター造りを行い交流を深めました。団員からは、「プランター作りは、全国植樹祭に使われるので一生懸命取り組みました。」「フィールドビンゴは、森林の宝ものを探すビンゴゲームが楽しかった。」など感想が聞かれました。



活動発表



プランター作り

## 阿久比高校

愛知県立阿久比高等学校の生徒40名と教師5名が、8月7日（金）に長野県西部地震復旧跡地に生育するハンノキ等の除間伐作業を行いました。阿久比高校では生徒たちが阿久比町内外でボランティア活動を実施しており、被災地王滝村での作業は今年で19回目になります。

当日は、王滝村の村おこし推進課長から歓迎のあいさつ、木曽森林管理署の職員から長野県西部地震の概要及び復旧の経過の説明を受けた後、木曽署、当センターの職員とインターンシップの指導の下、6班に分かれて作業を始めました。慣れないながらも手ノコを使い、次々と作業を行い、大きなけがも無く作業は終了しました。



除間伐作業



阿久比高校生徒たち

## 王滝・木曽支援ツアー

木曽地方の振興及び豊かな自然・文化を通じて、森林・林業・水資源についての理解を深めていただくことを目的に、公益財団法人おんたけ休暇村、中部森林管理局及び木曽広域連合が連携し、「王滝・木曽支援ツアー」を8月29日（土）～30日（日）に開催しました。

木曽川下流域の住民を中心に呼びかけ、名古屋市をはじめとした愛知県、岐阜県等から15名の方々に参加いただきました。

早朝より集合した参加者は、出発地である名古屋事務所に隣接する「熱田白鳥の歴史館」において林業の歴史と木材利用促進をテーマとした展示物の見学や、移動する車中において、かつては300日かけて熱田白鳥まで木材が運ばれていたことなど、木曽の林業の歴史や生活について事前学習を行いました。



製材工場見学

木曽路に入った一行は、最初に南木曽町の勝野木材（株）を訪問し、間伐から一貫生産の製材ラインやモデル住宅を見学しました。

勝野智明社長から、「森を育てるには適切な間伐が大切で、水源涵養、土砂の流出防止、温暖化防止などに役立っている。」など、間伐により山を守り育てることの大切さを分かりやすく説明していただきました。

続いて、王滝村へ向かい、水資源機構愛知用水総合管理所牧尾ダムを見学しました。

小河所長より、愛知用水牧尾ダムは木曽川水系の水資源として、愛知県、岐阜県に農業・工業・水道用水を供給する大事業が行われた歴史について説明がありました。

また、御嶽山噴火災害の対応として、ダム湖に灰が流れ込むかどうか注目していると説明がありました。

最後に、御岳国有林において、長野県西部地震復旧地や、昨年の御嶽山噴火災害での土石流に備えた堰堤工事等について、木曽森林管理署の担当者から説明を受けました。その後、宿泊施設へ移動し、明日への英気を養いました。

二日目は、王滝村から上松町に移動し、当センター職員の案内により、赤沢自然休養林を散策しました。江戸時代から300年余の時を刻み、見事に成長した木曽ヒノキが鬱蒼と生い茂る林内を散策し、木曽の林業の歴史や運材方法を学びました。参加者からは「製材工場を見学して、間伐材がこれほど活用されているとは良いことだ。」「王滝村は初めて訪れたが、緑が多くて空気もうまい。ダム建設の苦勞を知り、上下流のつながりを強く感じた。」「道の駅で木曽の野菜や特産品を買えたことも、小さな支援に協力できて良かった。」などの感想が寄せられました。



牧尾ダム見学